

# あしたの風

第90号

令和2年2月1日 発行  
編集発行 秋田市教育委員会  
生涯学習室

秋 田 市 の 生 涯 学 習



夏のソーメン流し  
～大住児童館～

# ☆☆西部地区☆☆

## ウエスターと共に

西部地区住民協議会

事務員 齊藤 裕美子

西部地区に複合施設として西部市民サービスセンター、愛称ウエスターが設立され、運営を開始してから十一年が経過いたしました。今まで、およそ八十万人の方に利用していただいております。未体験の方は面白い物やウォーキングのついでにでもお立ち寄りください。利便性がとても高く、充実していますよ。

準備段階の途中からではありませんでしたが、運営に関わらせていただいたのが始まりでした。住民窓口や子育て支援、地域活動支援等の機能をもつ複合施設としては、秋田市でも全国的にも初めての施設で、県外からの視察などもありました。貸館業務として真つ白な状態で、市役所や自治協議会との打合せを重ね、少々の不安を抱えながらも開館の日を迎えることができました。しかし、それからは怒濤の日々が続き、「サービスセンターなのに何もサービスになっていない」とお叱りを受けたこともありました。

それでも、「今日は一日楽しかったよ、ありがとう」と言っていたことに励まされたり…。協議会の理事・スタッフ、そして事務員いろいろな人との出会いは、私にとって本当に勉強になり、教訓となっています。

経験を活かしていきけるのかは、これからの課題でもあります。まずは「自分が楽しいか」です。これからも、一日一日を大切に、出会いに感謝しながら生きていきたいと思っています。



西部SCは平成21年5月7日開設

# ☆☆東部地区☆☆

## 心豊かに、丁寧

鈴木 哲郎

「今日生きて今日の若さは戻らない」という川柳があります。今日が一番若い、今日できたことが明日できるとは限らない。ならば、毎日やってくる「今日」を精一杯生きてみよう、という前向きな気持ちを表しています。作者は群馬県在住の九十八歳の男性です。

二年前、地域の方々との交流の必要性を強く感じ、明徳コミセンの「ふれあい元気教室」に参加しました。五月の定例会は、岩見川上流にある伏伸の滝や、辺祖公園などを巡り、昼食会場のユフォーレまでのミニバスツアーでした。

そこで俳句二句を作るよう用紙を渡されました。そのとき初めてつくったのが縁で、明徳俳句会に



シルバーカレッジでの相続セミナー

入会させてもらい、一年半になります。どちらも月一回の定例会ですが、毎回楽しんでいます。現在、自宅を事務所にして行政書士の看板を掲げています。相続や遺言、後見制度が専門です。西部市民サービスセンター（イーぱる）のシルバーカレッジや、明徳コミセンで「身近な法律のお話」として相続の基本と遺言書、相続に係る最近の話題、お墓の問題、特殊詐欺、尊厳死宣言書などについて話をさせていただいております。相続は百人いれば百通りの事情があります。今できることは何か、今だからできることは何か、そのようなことについて、地域のみなさんと一緒に考えたい、との思いで活動をしています。「人生で一番若い今日」を心豊かに、丁寧に過ごしたいものです。

## ☆☆南部地区☆☆

### 食を通して友達への思いやり

大住児童館運営委員会

委員長 高橋重道

大住児童館運営委員会では、「夏のソーメン流し」「年末の餅つき大会」「早春のお茶会」の三大イベントがあります。

運営委員会と育成クラブが連携し、このイベントを通じて、食の安全への意識を育み、友を思いやる心、そしてこれまで培われてきた地域の風習や伝統を体験してもらい、児童の健全育成に貢献したいという思いで取り組んでいます。

今回は「ソーメン流し」について紹介します。

この行事は、平成九年から行われており、最近では、約二百四十名前後の参加申込みがありました。初めの頃は、三百名余りの参加がありました。最近では減少傾向にあります。

開催当日、朝からスタッフの女性はソーメンを茹で、男性は「流し台」のセッティングに汗だく、お昼は全員で試食を兼ねて試運転。流し台の角度調整等を行い、全ての準備完了。後は、お客さんを待つばかり。

いよいよ、可愛いお客さんが殺到し、待機場所の割当て、一回に四十名毎の手洗い消毒、次に箸・めん汁の配布、流し台に誘導、全員揃ったところで、ソーメン流しスタート。

児童はめん汁の入った紙コップ片手に、流れて来るソーメンを割り箸ですくい上げ、美味しそうに食べていきます。上手に取れない子どもにも、お兄さん、お姉さんが取り方を隣で教えている姿は、



食の安全など、ソーメンから学ぶことは多い。

他人を思う心の表れです。なんとも可愛い行動に、準備に汗を流した大人達は感激していました。事業実施の上で重要な点は、食中毒に対する配慮です。安全衛生管理意識に関する重要性を共有するために、関係者全員での事前ミーティングを大切にしています。

いつも食べているソーメンですが、大勢の友達と食べる時の美味しさは格別ようです。

## ☆☆北部地区☆☆

### 出合い・ふれあい・助け合い

安藤正之

私は、現役時代勤務していた会社の退職者の会に入会しています。

何かお役に立てればと、情報連絡員の役割を頂きました。

年に数回①情報誌の配布②会員相互の安否確認③会員相互の親睦を深めることを目的として活動しています。

下新城・飯島・金足地区の九名に、情報誌を配布していますが、いつも心がけていることは、一人ひとりと対面しながら、手渡しすることです。

「お早うございます」、「こんにちは」と声かけしますが、物売りや警戒しているのか反応はさまざま。すかさず「〇〇〇退職者の会」です、と声かけすると、「はいご苦労様です！」と、明るく元気な返事が返ってきます。

大げさに言えば、仲間として受け入れていただいたことに、安堵の気持ちを覚えるとともに、連絡員をやっているよかったです。

連絡員を務めてから八年間、残念ながらお亡くなりになられた方、施設に入所されている方、病氣療養中の方等様々な方がいらっしゃいました。

高齢者が多い会の現実かもしれません。私自身もそうですが、会員の皆様も「健康寿命」を保ち、生きがいのある日々を過ごしていけるよう願っています。

今後も、事務局の方と連携しながら、連絡員として一年でも長く、会員の皆様と触れ合うことができると、思いを新たにしているところです。

## ☆☆《ボッチャの魅力》☆☆

ボッチャ（BOCCIA）は、今年の東京パラリンピック正式種目であり、重度脳性マヒなどで手足に障がいがある人向けに考案されたスポーツです。近年では障がいの有無に関わらず、老若男女誰でも楽しむことができるスポーツとして注目されています。

トップレベルのアスリートともなると、レクリエーションとは一線を画する競技力で、観る者を魅了します。

昨年九月には、リオパラリンピック優勝で世界ランキング一位のタイ代表が、本県大館市に事前合宿に訪れ、日本代表とのデモンストレーションゲームで白熱した試合を繰り広げました。

ボッチャは、ジャックボールと呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ六球ずつのボールをいかに近づけるかを競うゲームで、そのルールが氷上で行われるカーリングと似ているところから「地上のカーリング」とも呼ばれています。

様々な戦術を駆使して戦う頭脳戦であり、例えば、最初に投げるジャックボールの位置をどこにするかで、長距離での勝負か、近距離での勝負かなど、戦い方が変わってきます。残りの球数が少なくなるほど、仕掛けられる戦術の幅が狭くなることから、できるだけ相手にボールを消費させて、残りの球数を少なくさせることが、勝利のために重要となってきます。

### 【得点例】

ジャックボールに近いチームのボール(例えば赤)を判定し、もう一方のチームのボール(青)のうち、ジャックボールに近いボール(青)とジャックボールを結ぶ円内にあるボール(赤)の数が1ゲームの得点になります。左図の場合、赤3点、青0点



6個のボールを目標へ向かって投げる。

このように、奥の深いスポーツであり、最近では、秋田県でも、障がいの生涯学習の一環として、ボッチャの普及に取り組んでおり、パラリンピックも相まって、ボッチャへの機運も盛り上がってきています。

本市でも、昨年、南部市民サービスセンター別館において、生涯学習奨励員の自主企画事業として体験教室を開催し、秋田県ボッチャ協会会員の協力のもと、地域の住民とゲームを楽しみました。ボッチャ日本代表の愛称である「火ノ玉ジャパン」には、激しく闘志を燃やし一丸となって戦うという意味のほか、「火ノ玉宇宙（ビッグバン）」になって、パラリンピック競技全体を知ってほしいとの意味も込められているそうです。

未体験の皆さん、ボッチャが身近になったこの機会に、是非体験してみませんか。

【お問い合わせ】

- ① 秋田県生涯学習センター（学習事業班）  
〇一八―八六五―一七―
- ② 秋田県ポッチャ協会  
事務局長 鈴木 郁美  
〇八〇―一六五―三三九三
- ③ 秋田ポッチャクラブ  
(firethrow)  
代表 鈴木 郁美  
〇八〇―一六五―三三九三

ポッチャ協会、ポッチャクラブは  
メールでも受付しています。  
piyo2\_buu@yahoo.co.jp

◎参考文献  
公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会  
かたんポッチャガイド



第七十回秋田県公民館大会のお知らせ

令和二年十月二十九日（木）、三十日（金）秋田  
キャッスルホテルを会場に、秋田県公民館大会が  
開催されます。

主題は「新たな時代 今、求められる社会教育  
の力」生涯学習五十年をむかえる秋田からの発信  
」です。

また、読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏によ  
る記念講演も予定されています。

今年是全国集会・東北大会も兼ねておりますの  
で、本市社会教育関係者の皆様の積極的なご参加  
をお待ちしております。

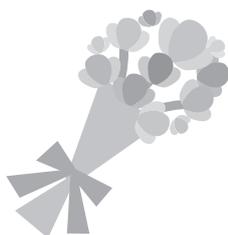
【参加対象】

全国及び東北各県の社会教育委員、公民館関係  
者、社会教育関係職員  
生涯学習・社会教育・学校教育関係者  
社会教育に関心のある方

【参加費】 三千円

【日程】 別表1のとおり

【分科会】 別表2のとおり



(別表1)

		12:00	12:00 13:30	14:30	16:00 16:00	17:00	18:00
<b>第1日</b> 10/29 (木)	受付	アトラクション	開会行事・表彰	記念講演	次期開催県挨拶	東北六県会議	情報交換会
	受付	分科会	閉会行事				
<b>第2日</b> 10/30 (金)	受付	分科会	閉会行事				

日程

公民館大会日程

(別表2)

**分科会  
(予定)**

<b>第1 文科会</b>	地域課題の解決によるまちづくり ～地域とともに歩む社会教育の在り方～	<b>【社会教育委員の役割】</b>
<b>第2 文科会</b>	つながる ひろがる みんなの学び ～一人一人に寄り添う支援の在り方～	<b>【共生社会の実現】</b>
<b>第3 文科会</b>	学校を拠点とした地域の学び場 ～学校と地域の未来づくり～	<b>【学校・家庭・地域の連携・協働】</b>
<b>第4 文科会</b>	どうあるべきか 新時代の公民館 ～探ろう 公民館の未来像～	<b>【公民館の在り方】</b>
<b>第5 文科会</b>	つながりが創る豊かな家庭教育 ～自らの手で未来を切り拓く子どもの育成～	<b>【家庭教育支援】</b>

**令和元年度  
秋田県公民館連合会表彰**

令和元年十一月十四日、由利本荘市で開催された第六十九回秋田県公民館大会において、左記の方が表彰されました。

尾形悦子 奨励員（河辺地区）

おめでとうございます。  
今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。



**編集後記にかえて**

昨年のラグビーワールドカップ日本大会では、国籍や経験、背景が異なる選手で構成された多様な豊かな日本代表が、「ONE TEAM」で日の丸を背負って戦う姿に、多くの人が感動しました。

今年はオリンピック・パラリンピックが控えています。こちらの大大会は「多様性と調和」が掲げられています。

生涯学習の分野でも、今年は「多様性」が存在感を示す一年になるかも知れません。（石塚）

**編集委員**（秋田市生涯学習奨励員）

- 佐々木 孝（中央） 佐藤 美枝子（土崎）
- 伊藤 キヨ（西部） 鈴木 啓子（東部）
- 藤原 博子（南部） 中泉 雪子（北部）
- 石塚 小枝子（河辺） 竹下 潮子（雄和）

**『あしたの風』第九十号**

発行年月日 令和二年二月一日  
編集発行 秋田市教育委員会生涯学習室

秋田市山王一丁目一番一号

電話 〇一八八八八八八八五八一〇

この広報誌は  
発行部数 一一〇〇部  
配布方法 無料配布